

先日、京都の澤先生の話を聞いたのですが、その中で「発達障害を持つ人たちに逆説は非常にわかりにくい！」というのがありました。ある、作業所に通う男の子が、突然作業所に行かなくなりました。なぜか？と調べてみると作業所のスタッフの方が問題を起こした彼に対して「そんなことをするならもう来なくない！」と怒ったそうです。作業所のスタッフさんが伝えたかったのは「もうこんなことしないでね」だったのですが、本人には「もう来なくない」がしか入らなかった。というものです。

“わかるように伝える”これはとても重要な、支援者が気をつけなくてはならない事ですね・・・。

久田

第21回 『わかるように伝えてますか』

香川大学 坂井 聰

日課を守る習慣をつくるために

相談に来た学生のなかに、朝起きることができないために一時間目の授業に間に合わないことが多く、このままでは出席日数が不足し単位を得ることができないので、どのようにしたらよいのかという問題を抱えている方もいました。

この学生は、特別支援教育に関する授業を受けるなかで、今までの経験と照らし合わせて、自分には発達障がいがあるのではないかと感じ始め、苦手なことに気がつき、解決 策を求めて来談したということでした。授業があることはわかっているのです。目覚まし時計もかけているのです。それも一つ ではなく数個かけているということでした。目覚まし時計のおかげで一度目が覚めるのだそうですが、また寝てしまうことが多いためにその結果として、授業 に間に合わなくなってしまうことになってしまふのです。このような場合、授業という個人の判断だけで行動を考えることができるというのではなく、他の要素を入れてみるというはどうでしょうか。朝起きて学校にいくのは自分のためだけではないと考えができるようにするのです。

この学生に対しては、筆者の研究室に朝挨拶に来るようという課題を与えることにしました。

「あなたの元気な声を聞いたらやる氣があるので、朝一声かけてもらえますか」というものです。

もちろん、挨拶に来たら、研究室で他の学生たちも交えて一緒にコーヒーを飲む時間を作るようにしました。自分一人では意欲がわかない場合でも、そこに人が介在すれば、可能になることがある ということではないかと思うのです。もちろんその時には、「よく起きることができたね」ではなく、「朝来てくれたから、今日一日も頑張れそう」というように、その子が朝起きることができたことを評価するのではなく、私が助けられたということを伝えるようにするのです。自分の行動が、周囲の人を助けることになる。

周囲の人を幸せにすることがある。ということをわかるように伝えるようにするのです。

数ヶ月間、その学生は「おはようございます」という声かけを続 けてくれました。あるとき、その学生からメールが届きました。そこには、「朝起きることができるように自信がつきました。一人でやってみます。朝声をかけられなくなりますが、ごめんなさい」ということが書かれていきました。ゼミを担当する先生にも確認してみましたが、その後は遅刻もなく、表情もよくなっているということでした。そして、この春希望した職種に就職することもできたということです。

日課を守る習慣を作るのですが、自分ひとりだけでそれを実行しようとすると無理がある場合もあります。そんなとき、「あなたが必要だから朝来てね」というようにつたえていくことで、意志を強くもつことができる可能性もあるということを知っておくことは大切です。

一つ忘れたことがあります。それは、来ることができなかった時の対応です。「こない と困る」というような声かけではなく、「〇〇さんが来ないから、ちょっと元気が出なかつたな」というように、自分で行こうと決断できるようにしていくことが大切です。人に決められるのではなく、最後は自分で決めるができるようにする必要があるということですね。

新年度がスタートしました。家族に対してもそんな言葉掛けすることができたらいいと思うのですがいかがでしょうか。 「あなたがいるから幸せです」と

坂井聰先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里） クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会） 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など